

第2回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 平成30年11月13日（火）午後7時00分～9時00分

【出席者】 宮地孝夫委員、八木敏伸委員、松下洋平委員、中平ゆかり委員、山本大輔委員、川下徳之委員、田頭誠志委員、矢野健一委員、安藤岳委員

【行政側】 竹本地域振興局長、酒井町民生活課長、大元まちづくり推進室室長、中井四万十川対策室長、富田地域振興課副課長、西尾まちづくり推進室主査、竹村まちづくり推進室主事、井口地域振興課主査

【傍聴人】 なし

【議事及び質疑応答】

議事

(1) 四万十川を中心とした滞留人口を増やすことについて（協議）

（富田_地域振興課副課長）

前回会議で、四万十川の水質データや十和に関連する（川の）計画、そして消防道の現状データが欲しいという声があったので、今日の会議案内と一緒に委員の皆さんに事前に郵送させていただいた。今日は四万十川対策室長の中井が来ているので、前段の水質データおよび川に関連する計画について簡単に説明してもらいたいと思う。

（中井_四万十川対策室長）

水質データは、お手元に配布したアユとともに生きる地域づくり宣言という冊子の、12ページ以降にあるので見てもらいたい。多少、年によって増減はあるが水質が悪化していることはない。数字のデータで言うと17ページにある。経年動向はだいたい、横ばいである。近年は夏場になると水が濁ると言われたりしている。

四万十川対策室がこれからやろうとしているのは、町内9地点で四万十川のデータをとりようとしている。夏と冬で、対策室として実施しようとしている。

それと十和に関連する川の計画についてだが、十和に絞った話ではなく、川全体で考えたものが資料の71ページから載っている。73ページに将来像の絵がある。天然アユが激減していると言われている今、群れで泳いでいるのがシンボルと思う。77ページにもう少し踏み込んだ絵がある。基本方針は3つある。（①アユなどの水産資源と川をよりよく活かす、②天然アユを増やす、③関わる人を育てる）

対策室として取り組みたいと思っていることは、水産物を提供できる場所（観光客が飛び込みで行ってもアユを食せる場所）をつくることと、アユのブランド化。川のアクティビティは町内でも十和が町全体を引っ張ってくれていると思う。引き続き魅力に磨きをかけてほしい。例えば、かっぱ組合のような川船に乗船して川で遊べるようなことを町全域に広げられないだろうか。天然アユを守る

ために、放流だけでなく乱獲をしないとか、併せて環境の保全も考えたい。プラスチックごみの削減。使う、使わないだけでなくゴミをそもそも出さないような意識も、流域住民として必要だと感じている。それを広く発信したい。

それと、川漁をする人はいるが、それを他人に説明できる人はまだまだ不足していると思う。四万十川に遊びに来た人が、充実した川遊びのアクティビティに触れられるよう、これから取り組んでいきたい。

(富田_地域振興課副課長)

消防道については、資料のとおり四万十川沿いに約30ある。詳細はお手元の資料でご確認いただきたい。

(安藤岳会長)

以上の、説明を聞いて何かご意見は？

(川下徳之委員)

合成洗剤について。中井室長は、これに関する議会の答弁を知っているか。今後検討します、という執行部側の答弁だった。合成洗剤をすべて廃止、これは徹底できるか？内々の話として。行政はすぐに、検討しますと言う。昔からそう。国は、川の汚れは合成洗剤だと言い切っている。アユの激減と明らかに因果関係がある。行政はこれをどう思っているのか、中井室長に聞きたい。

(中井_四万十川対策室長)

個人的な考えだが、環境にやさしい洗剤など存在しないと思っている。じゃあ石鹼…となると、面倒だと感じる人もいると思う。環境意識の低い人は、川へ垂れ流すとかいろいろある。環境意識の低い人を、どうするか。ここの意識を上げることが重要だと思う。しかしそれについては、強制はできないと思っている。

(川下徳之委員)

そのとおり。だからこそ、行政が早くやってよと言っている。行政がやらなくて誰がやり始めるのか。ゴソッと変えるだけ。今の洗剤を環境にやさしいものに変えるだけ。そこからスタートだと思う。何かで見たが、検討しますと言って本当に実行に移すのは1%ぐらい。やらないと言っているのと同じこと。四万十川を生かす人材の育成についても一言。自分に声がかからない。別に声をかけてと言っているわけではないが…話があまり逸れるといけないのでこれで終わりにする。

(安藤岳会長)

その他ご意見は？

(川下徳之委員)

ジップラインの話は今日聞けるのか？

(竹本_地域振興局長)

道の駅と、対岸のご成婚の森をできたら往復するジップラインにしたい。12月補正予算で、それが本当に実現可能かどうかを調べるための調査費を計上する予定をしている。

(中井_四万十川対策室長)

それに関連して、ひとつ自分からもPRしたい。40歳以下という年齢制限はあるが、徳島へバスツアーで行く異業種交流会がある。祖谷のジップラインも見に行く。興味のある方がいれば、参加やPRをお願いしたい。

(安藤岳会長)

その他ご意見は？

(矢野健一委員)

道の駅だが、夏にトイレ前を占拠して一泊している人がいる。役場としてどう思うか。

(富田_地域振興課副課長)

ある程度、指定管理者（道の駅）に任せていて、前指定管理者の時からたまり場にならないように夜間は電気を落とすなど占拠できにくい配慮はしている。ただ、それでも占拠する方がいるとなると対応が考えないといけないと思っている。

(竹本_地域振興課局長)

目に余るようなら看板を設置するなど行政として指導しなければいけない。

(矢野健一委員)

道の駅にも少し言ってほしい。

(富田_地域振興課副課長)

了解です。

(宮地孝夫委員)

話は戻るが、個人的にはジップラインはやったらいいと思っている。それで実際にやるとして、人

がたくさん来るようになったらもっと複合的に地域のお金を落としてもらえるような仕組みが必要なのでは。

(松下洋平委員)

キャンプについて。アウトドアメーカーで有名なモンベルが本山町に8億円くらいかけて施設整備した。地域の防災拠点も兼ねており、中には雰囲気の良いカフェもある。モンベルは四万十市のロイヤルホテル内にもアンテナショップを開いており、四万十流域に興味がないわけではないと思う。小さなことでも構わないので、モンベルさんと何かタッグを組んで面白いことができないだろうか。例えば合成洗剤を使わないことを掲げたキャンプ場とか。環境にやさしい町であるというPRにもなるし、そこで雇用が生まれれば人材育成にもつながらないだろうか。

(竹本_地域振興局長)

たとえば午前にラフティング、午後にジップラインとか。十和での滞在時間を増やすことを考えたい。

(松下洋平委員)

まさに滞在時間は、今回のテーマでもある。

(富田_地域振興課副課長)

予算次第ということもある。たとえばジップラインに関して言えば、それを作るために理想的な傾斜は、4～10度。最も費用を抑えようとするなら、ご成婚の森から道の駅側へ下るラインのみ。傾斜は8度ぐらい。たぶんここなら、高さ調整は不要と思われる。ただ、往復にしたいとなると予算も膨らむ。さらに、山の上にちょっとしたアスレチックなどを作るとなるとアフターメンテナンスにも費用が掛かる。(アスレチックの維持管理費はかさむ)後年度負担をしっかりと考えたい。道の駅周辺でいうと、ライダーズ・イン四万十の活用も検討したい。

(矢野健一委員)

ライダーズに向けた町道は道が細いうえに、時々落石もある。道路の維持管理に困っている。

(富田_地域振興課副課長)

もうそろそろライダーズは有効活用を考えたい。

(安藤岳会長)

了解。それからジップラインのことは今後も局から報告をもらいたい。

(川下徳之委員)

ジップラインについて、地元としてなにか意見が言える？意見が言えない方がおかしいとは思うが。

(宮地孝夫委員)

自分も、広聴の機会はあったらいいなと思う。

(竹本_地域振興局長)

年明けに、何かの形でやる。

(田頭誠志委員)

ジップラインは一つの手法だと捉えている。リピーターとか地元とのふれあいとかも含めて検討しているか。ジップラインが滞留時間を増やすためのひとつのきっかけになるのは分かる。しかし、それを含む全体のプランがないと。その目玉の一つがジップラインではないか。視野が狭くならないようにしたい。例えば地元のお母さんが保育園児（子供）を連れてご成婚の森から眼下の四万十川を眺めながらお弁当を食べるとか、アスレチックで遊べるとか。地元の人も楽しめるプランを。

(中井_四万十川対策室長)

県は仁淀ブルーなどと銘打ち、あちらに力を入れている。しかし四万十川という名前は全国区だ。この四万十川というブランドを自分たちはうまく使えているだろうかと考えることがある。町のパンフレットを見ても、あまり川で遊ぶという部分は載ってない。名前だけ一人歩きしている。

(田頭誠志委員)

四万十川の表情は、窪川と十和とでは全然違う。イメージも、水量も。そこをお互いが知らないと、と思っている。この計画（アユとともに生きる地域づくり宣言）は、最も現実とかけ離れている。

(富田_地域振興副課長)

ジップラインは、自分たちも全体プランの中のひとつだと思っている。最近、窪川地区では観光協会が事務局になって松葉川地域で有志が会議を立ち上げている。十和地域でも観光協会を事務局にそういう話し合いの場は持つ計画をしている。ただ、そのメンバーの主体は既存の観光施設等に関わり者を対象に考えており、一方で直接観光施設には関係ないメンバーの本会で出た意見とのキャッチボールも今後は考えていきたい。

(安藤岳会長)

我々の会として、あまり莫大な予算がかかることを提案するイメージではないことが分かった。今日は最終的に、次回につながるテーマを1つ2つ、出してほしい。

(田頭誠志委員)

確認だが、滞留人口とは？

(富田_地域振興課副課長)

前回の田頭委員の意見をもとに出てきたテーマだったと思うが、ここに来る、泊まる、遊ぶ、お金を落とす…そういうイメージだと思っている。

(宮地孝夫委員)

ジップラインに話が戻るが、現状でポンとそれだけの設備ができましたとなったとき、実際にどうか。たぶん多くの人が、ちょっと滑って道の駅で好きなお土産を買い、それでじゃあ帰ろうってなると思う。これは自分の感覚だが、あまりウロウロして遊ぶというよりは一か所で滞留して遊びたい。都会から夏場、「沈下橋から川へ飛び込みに来た」というただそれだけの目的で四万十川に来る人がいるが、もともとここに住んでいる自分たちからしたらそういうのは持ち合わせていない価値観だ。え、それだけ？みたいに思う。

(川下徳之委員)

体験があまりないと感じる。シンプルで良いのだけど。ボート乗ってアユ釣って食べる、ただそれだけですごく楽しい。川をまたぐブランコとか。揺られるだけの。我々が考えていることは壮大すぎるが、実のところ都会の人々が求めているのは大げさじゃなくていい、シンプルなことだと思う。

(田頭誠志委員)

ハード整備だけのプランは限界がある。「十和に暮らす人々のたのしさ」は外したくない。四万十川を作ろうって言ったって絶対に作れない。先日ベルギー、フランス、オーストラリアから来たお客さんがいた。何をしているかという、四万十川沿いを自転車で走っている。感想をきくとみんな、「よかった！」と言う。こういうのは、計画から外したくない。

(中井_四万十川対策室長)

消防道に関して。県内の仁淀川や鏡川へ行く人がそこで何をしているか。たとえば仁淀川なんかは、河原まで車で降りることができるのでそこでバーベキューを楽しんだり、目の前にはコンビニもあり非常に便利である。十和に、河原へ下りられる看板があるだけでも違うと思う。いまだと、川沿いを車で走って立ち寄りやすい道の駅とかに行き、そこで写真撮って「四万十川に行ってきました」で終わってる。その後は高知市内でカツオのたたきなどを食べて都会へ帰っている人が多い。

(宮地孝夫委員)

昔はキャンプ客がよく十和にも来ていた。だが、ものすごくマナーが悪かった。7割ぐらいは悪い。だから自分たちは当時、キャンプ客には来てほしくなかった。時々、この人たちはマナーがいいなと思ってふと脇にある雑木林を見るとそのままこっそりごみを捨てて帰っていたこともあった。その辺も含めて、どういう観光をしていくか。川沿いに看板あったらいいなと思うけれど。

(川下徳之委員)

我々は四万十の冠をとった町なので、それはいわゆる環境のシンボル。利用しないともったいない。宝の持ち腐れ。

(八木敏伸委員)

四万十川には支流がある。そこがきれいじゃないと、本流もきれいにはならない。国道沿いのことだけを考えていてもいけないと思う。もっと奥の地域にも目を向けてもらいたい。

(冨田_地域振興課副課長)

今日は酒井法子委員がお休みだが、前もってメールで色々ご提案をいただいている。その中で、支流のことも書いてくださっている。今の八木委員の話と近いのかなと思う。

(安藤岳会長)

せっかくなので、ほかの委員さんご意見を。山本さんどうぞ。

(山本大輔委員)

この会がどう進んでいくのか分からない。想いがないと、何も進まないと感じている。危機感をもってやらないと何事も中途半端に終わる。たとえばよってこい四万十のイベントへ出店しているが、年々売り上げが落ちている。他にも四万十川まつり。青年団だけで運営していくのは人数的にも限界にきているのではないかと感じる。自分たちも考えなければいけないが(どうやったら盛り上がるのか)この祭りに対する想いが薄いからかな?と思う。四万十川まつりは、なんだか寂しいイベントになっている。補助金も出ていると思う。やり方を変えないと。

(矢野健一委員)

組織の事についてだが、青年団単独だともう厳しいのでは?別組織とくっついていかないと。今はほぼ事務局は役場の若い子がやっている。でもいろんな人を巻き込まないと何かやろうとしても厳しいと思う。

(田頭誠志委員)

そもそも四万十川まつりがどういう経緯で始まったか知っているか。自分も知らなかったが、この

まつりを最初に企画運営していた人物と話をする機会があり、教えてもらった。当時、四万十川を分断するようにして家地川ダムができた。上流でも家地川公園桜まつりをやっているが、下流でもなにかイベントをしたい。というのも、四万十川はそもそも一本の河川なのにダムをきっかけに流域住民の気持ちまで分断されるようになってはいけないとの思いから、これからも四万十川を大切にしようという地元の機運を盛り上げるために始まったのが、四万十川まつりの始まりである。

(安藤岳会長)

まつりの由来を初めて知った。この会として、四万十川まつりの充実をテーマにしても良い。

(宮地孝夫委員)

田頭委員の話を聞いて思ったが、そういう由来があるのなら、まつりの開催場所を思い切って河原にするのも良いのでは。

(矢野健一委員)

まつりの中身だが、かっぱ組合に船の行き来をお願いしてみるとか、午前中からまつりを始めますよ、とか。ラフティングもできる、店もある、みたいな。

(安藤岳会長)

個人的に、このまつりに関わってきたこともあり一番思いが入りそうなテーマだと感じる。

(宮地孝夫委員)

今、となりの西土佐地域がイベントをするのにうまいと思う。先日、うまいもん市？すごい人だった。お店はあまりないけれど商店街を歩行者天国にして。食べ物系は強い。人が寄ってくる。駐車場がないから大変だとは思いますが。

(安藤岳会長)

ほかにご意見はないか。

(川下徳之委員)

大正の一ノ又溪谷温泉のところに、魚道ができています。本流には影響ない。十和に作れるか？

(富田_地域振興課副課長)

できるかどうかは分からない。法的な部分も含めて。

(中井_四万十川対策室長)

魚道とは違うけれど、支流で子供たちが安全に遊べる場所づくりを四万十川対策室として取り組みたいと思っている。本当に小さい子供（保育園児）たちも来れるような。魚を観察できたりするのもいいと思う。十和で魚道を作ることの可否は、県土木事務所に聞いてみないといけないが具体的にこの場所、と指し示してもらったほうが話をしやすいが、どうか。

（川下徳之委員）

モデルとしたら、戸川の分岐してすぐのところはどうか。一番最初の堰があるところ。夏場になると子供たちがよく泳いでいる。

（宮地孝夫委員）

干上がっているところはなかったか。

（富田_地域振興課副課長）

県土木に確認に行こうか、中井室長。

（山本大輔委員）

今回の会で、十和のイベント一覧が見たい。十和に特化して、実施主体とかも。産業祭も含めて。

（安藤岳会長）

それでは次回は四万十川まっりの在り方についてと、魚道の可能性を事務局に確認してもらおうということでしょうか。

※一同、異議なし

（竹本_地域振興局長）

今回の会議は、年明けの1月中旬頃でどうかと考えている。詳しくは後日、案内の手紙を送るのでご検討願いたい。

※各委員から、開催日は1月中旬の木曜日が良いという意見が出たため、その方向で日程調整を行う。

— 終 了 —